

別紙

平成20年度 森プロ事業実績：郡上森プロ

(平成21年3月末現在)

		H19年度	H20年度				5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		30	44.94	60	134%		222.71
作業道(m)		1,760	190	190	100%	作業路含む	12,667
間伐等	面積(ha)	1.61	41.89	52.6	125%	利用+切捨	218.3
	材積(m3)	250	4,486	3,065	68%		22,518
備考							

平成20年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)

3,000円/m3

施業集約化の状況

- 利用間伐をやれば少しお金が入るという口コミにより、所有者から依頼が多くある。それらを森林組合が施業集約化。
- ・所有界は、森林組合が無償提供した杭により、所有者同士で決定。

施業プランの活用状況

- 担当者が森林所有者を個別訪問し、見積書により事業説明を行って承諾を得ている。
- ・提案書は細かくてわからないと言う高齢者が多いため、現在は見積書で説明。

施業プランナーの養成状況

施業プランナー：2名(H19：1名、H20：1名)

作業道の状況

木の大きさ、将来経営も考え、支線においても3.6mを標準とした作業路道を開設。
開設は、全て森林組合で行った。(設計・管理・先行伐採・開設)
作業道入口付近が急勾配であったため、一部勾配修正止水エースにより表土流失を抑えた。

下向線作業道開設



作業システムの状況

平成20年度 素材生産性 約13.4m³/人・日(伐採～積込まで)

長伐期施業における中齢級の間伐を列状により実践。→明宝式作業システム

メインシステム: チェンソー(伐倒)→スイングヤーダ・グラップル(集材)→プロセッサ(造材)→

グラップル(積込み): 作業道(支線)の状況によりフォワーダも活用

集材・造材工程



中間土場よりトレーラーにて運

グラップルでつかみ出せない距離(30m～80m)は、スイングヤーダで集材。
集材後、プロセッサで造材。

運材工程



その他

- 中間土場を設置し、検地・選別を行い、市場、工場(システム販売)等へ輸送
- 地元製材工場等へ直接販売(葉枯し材)
- ・ 葉枯し材を使用した住宅をPRする雑誌等に掲載
- 良質材の選別を正確に実施し、出荷時期の調整等で売値単価のアップを図る。
- 残存木への損傷を軽減するよう研修会を開催

葉枯し材



森プロの成果

- ・ 組合内で切り捨て間伐から利用間伐への意識の醸成が図られたこと。
- ・ 所有者への還元が図られるシステムの見込みができたこと。
- ・ 施業プランナーの役割がはっきりした。
- ・ 既往の高性能林業機械を活用する中で生産性の高いシステムを確立している。
- ・ 素材の生産と流通が効率的に結びついた形となっている。

今後の課題

- ・ 作業システムの熟度の向上。(明宝式の練磨と改良)
- ・ 高齢級の間伐手法の確立。
- ・ オペレーターの技術の習練。(残存木を傷つけない。)
- ・ 作業路開設時の伐開幅の抑制。
- ・ 他の郡上管内の地域へ説明会等を開催し、普及啓発の実施。